



ぱおぱおサロン (三郷)

NPO 法人 子育て支援ぱおぱお TEL 77-1180



【施設情報】

時平日10時～12時(※園庭は18時まで利用可)

【特徴的な講座】

- ぱおぱおサロン・・・七夕まつり、お月見、焼き芋会、楽器の生演奏など
- 子育て学習会・・・救急法講座、幼児食講座など
- 食育講座・・・地域の食文化(郷土食)を作る
- その他・・・ママキッズエクササイズ、こちょこちょサロン

【利用方法】

要利用登録(登録方法など詳細HP参照)



子育てにおいて、親子で楽しみを共有することは、育児のストレスを軽減し、気分転換になります。親子の体験の共有と共感が育児を楽しむきっかけになります。スタッフと季節感があって、親子がワクワクする企画を考え、地域のシニアの方々と一緒に実施しています。

「どんなイベントがありますか？」

子育てにおいて、親子で楽しみを共有することは、育児のストレスを軽減し、気分転換になります。親子の体験の共有と共感が育児を楽しむきっかけになります。スタッフと季節感があって、親子がワクワクする企画を考え、地域のシニアの方々と一緒に実施しています。

「どんな施設ですか？」

保護者にとって、子どもの成長は大きな喜びです。子育てで、不安や悩みを誰かに相談したいときやママ友・パパ友をつくりたいときといった場面があると思います。同じ子育て中のパパ・ママ、子育ての先輩と話すことで、肩の荷を少しおろし、自然と笑顔があふれる交流と共感の場になればと思っています。

「地域で支えるぱおぱおの子育て支援」

三郷一日市場で18年間地域の子育てサポートをしてきた「NPO法人子育て支援ぱおぱお」。急激に変化している子育て環境に合わせ、地域のボランティアスタッフと共に互いに支え合いながら開かれた子育て支援の場を展開しています。「いつでもおいで」と利用する親子に優しく声をかける同法人理事長の小口茂子さんに話を聞きました。

INTERVIEW (利用者の声)

広い室内で子どもがのびのびと自由に体を動かせるこの場所は大変ありがたい。親子で遊べ、気分転換ができ、ママ同士の交流もできているので、週2、3回は利用しています。



百瀬 裕太さん
千春さん
優生くん・1歳
(三郷明盛)

イベントを通して、地域の異世代交流も生まれています。子どもの「出来たー!」を大切に、パパ・ママには、たくさん褒めて、認めて、抱きしめてあげて欲しいと思います。



NPO 法人
子育て支援ぱおぱお
理事長 小口 茂子さん



特集

「いつでもおいで」

笑顔がつなぐ子育て支援

✕ デイアやSNSなどで最近よく目にする「ワンオペ育児」。育児の担い手が1人であることを意味します。家事・育児を1人で行わざるを得ない家庭がまだまだ多いことを象徴する言葉といえます。

また共働き家庭が増えた現在、仕事と育児の両立に悩む家庭も多く、働く保護者へのサポート体制づくりが必要です。

4月1日現在、市内の3歳未満の子どものうち未就園の子どもは1105人と3歳未満の就園児童数が年々増加しています。3歳未満の就園児童数が年々増加しているとはいえ、多くの子育て世帯が家庭で保育を行っています。

市では、ファミリーサポートセンターや児童館、保育施設等での一時預かり保育といった育児サポートを行っています。また、経済的な支援として第2子以降の子どもが未就園(児童福祉施設等に入所していない)の場合、子育て応援手当として、対象児童一人につき月額3000円を支給するなど、総合的に子育て支援を行っています。

地域で支える子育てニーズ

多様化する子育てニーズに対応するため

には、市と民間や地域で連携して子育てを行っている必要があります。

市内には地域で子育てに取り組みさまざまな施設が工夫を凝らした魅力的なサポートを行っています。

子育ての悩みの相談や、年の近い子どもを持つ保護者同士の情報交換、ママ友・パパ友といった友達作りの場としてなど、複数の施設やサービスを組み合わせることで、子育てを楽しみやすい場としての役割を担っています。

「笑う門には福来たる」

「笑いの絶えない人の家には、自然と幸福が訪れる」という意味のことわざです。笑顔は人間関係を築く上で大切な要素と言われています。それは家庭でも同じで、良好な親子関係は笑顔によって築かれます。

市内には、親子で楽しめて、笑顔があふれる子育て支援の場がたくさんあります。子育ては家庭だけの問題ではありません。地域で子育てを行うことが少子化・核家族化といった課題解決につながります。今月号では、安曇野の子育てを地域で支える活動をご紹介します。

